

神経障害に伴う運動発達・運動能力・運動機能に関する研究

～赤ちゃんから成人までを対象に～

理学療法学科神経・発達障害理学療法領域 小塚 直樹 教授



Q. どのような研究をされていますか？

A. 私たちは、中枢神経、末梢神経が傷ついた結果生じるこどもの運動発達障害やおとなの運動機能障害をテーマとして、厳格な理学療法の評価法と治療法の実践をめざし、研究を進めています。対象は赤ちゃんから成人までで、常にその分野に興味を持ち、研究を志す大学院生、学部生が集う場になっています。

Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 研究室を以下の 3 グループに分類し、それぞれの目的に向かって精力的な研究活動を展開しております。「新生児グループ…新生児の段階から医学的治療が必要になる赤ちゃんたちの特異的発達の解明と有効な理学療法の提言」、「発達障害グループ…生まれつきの障害を持ちながらおとなになった人たちの運動機能評価、筋骨格評価、神経学評価と安全な日常生活の提言」、「成人障害グループ…脳障害後の運動障害の評価と安全な日常生活の提言」。現在、新生児グループは、早産・低出生体重児と呼ばれる赤ちゃんを対象とし、生後から学齢期までの運動発達の特徴を追跡しています。発達障害グループは、成人脳性麻痺を対象とし、座位、立位、歩行などの基本動作の特徴を追跡しています。成人障害グループは脳を損傷させた動物モデルを用いた姿勢調節や歩行などの機能障害の評価や運動療法によるリハビリ介入効果の検証といった基礎研究をはじめ、脳卒中後遺症者を対象としたバランス機能に関する実験研究、身体活動に関する調査研究を進めています。



Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. リハビリテーション治療では正確な予後予測が重要です。なぜならば、予後を考慮しない治療計画は、必ず患者の皆様にも「無理なこと」や「無駄なこと」を強いる可能性があるからです。私たちが常々、大切に考えているのは、出来る限り正確な予後を予測した上で、タイムリーな治療を効率よく行い安全な日常生活を行っていただくことです。特に発達という変化の激しい過程の予後予測、あるいは中枢神経障害後の不安定な回復過程の予後予測は難しい側面もありますが、最新かつ最適な評価を行うことにより予後が可能であると考えております。



もう少し知りたい! と思った方はこちらへ

- 理学療法学科 発達障害理学療法領域 URL

➡ http://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/pt/pt_hattatusyougai.html

- こどもの理学療法研究室 URL

➡ <https://sapmedpediatricspt.wixsite.com/pedpt>